

災害救護拠点における被災者名簿作成に備えた被災者対応訓練シミュレータ

1170296 岡村 啓二郎 【 ネットワーク信号処理研究室 】

1 はじめに

災害発生時、自治体に予め定められた病院の外には被災者の一時避難や応急手当等を目的とした災害救護拠点が開設される。ここでは被災者の安否確認や災害救護医療拠点の状況把握のために、被災者名簿が作成される。被災者への迅速な対応のために、被災者名簿の作成時の手間を減らすためのシステムが検討されている [1]。このシステムは現状災害時にもみ稼働するシステムであり、災害時に慣れないシステムを使う事は困難である。本研究では、平時にこのシステムを用いて名簿作成訓練を行うための被災者対応訓練シミュレータを提案する。

2 災害救護拠点における被災者名簿作成データベース

災害救護拠点では、総合受付で、怪我の度合いや医療対応の要否などに応じて、被災者を複数の処置エリアに誘導する [2]。その流れを図 1 に示す。

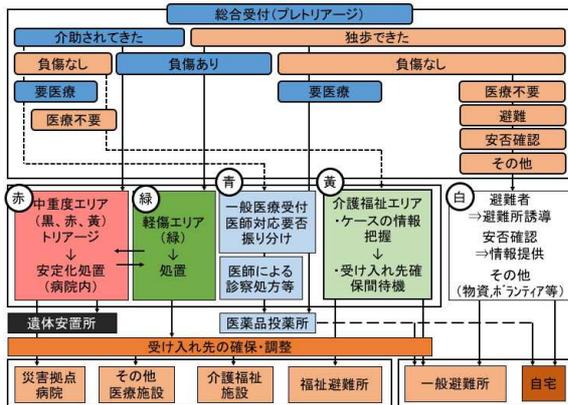


図 1 災害救護拠点内の役割と活動の流れ

訪れた被災者の情報は各エリア毎に被災者名簿作成データベースを用いて被災者名簿に登録される。被災者名簿作成データベースは被災者名簿を電子化し、Webクライアントを用いて被災者情報を登録するシステムである [1]。総合受付では、拠点内で個人を識別するためのタグを被災者に付与し、被災者の個人情報とタグに記載された番号をデータベースに登録する。各エリアでは、処置内容と被災者が持つタグの番号を各エリアにて、データベースに登録する。これにより、タグの番号で被災者の個人情報と複数の処置エリアでの処置内容が関連付けされ、被災者名簿が作成される。

問題点としてこのシステムは災害時にしか利用されないため、名簿作成者が慣れないシステムを用いて名簿

被災者シナリオテーブル

特記事項	性別	発話	歩行	重症内容	重症対応	軽傷内容	軽傷対応	医療内容	医療対応	備考	最終行き先
妊婦	女性		介助						院内
妊婦	女性		独歩				避難所
妊婦	女性		独歩						自宅
妊婦	女性		独歩						自宅

特記事項で絞込んだレコードからランダムで状態と対応を取得

特記事項	性別	発話	歩行	重症内容	重症対応	軽傷内容	軽傷対応	医療内容	医療対応	備考	最終行き先
妊婦	女性		独歩				自宅

図 2 被災者シナリオの自動生成の仕組み

作成をしなければならない。そのため、被災者とのやりとりで支障が生じ、正確な情報を被災者名簿に登録出来ない可能性がある。

3 被災者対応訓練シミュレータ

本研究では、平時から被災者名簿作成データベースを用いて名簿作成訓練を行うためのシミュレータを作成し、シミュレータを繰り返し使用してもらうための仕組みとして被災者シナリオの自動生成を行う。

シミュレータではユーザが、災害救護拠点での総合受付、各処置エリアでの名簿作成者となり、訪れた被災者への対応と、対応により得られた被災者の情報を名簿に登録するまでの流れを体験出来る。

被災者の各エリアでの動きは、被災者シナリオによって決まる。被災者シナリオは毎回システムが自動生成する。被災者シナリオテーブルに予め格納したサンプルデータから、新しい被災者シナリオを作成する仕組みを図 2 に示す。作成された被災者シナリオテーブルを元に各エリアでの被災者の動きを生成する。

4 まとめ

本研究では、災害救護拠点における名簿作成に備えた被災者対応訓練シミュレータを作成し、シミュレータを繰り返し利用してもらうため、被災者シナリオの自動生成を行った。今回は、災害救護拠点内の一部のエリアでの被災者シナリオしか自動生成出来ないため、今後は被災者シナリオテーブルを拡張し、他のエリアでの被災者シナリオも自動生成できるようにする必要がある。

参考文献

[1] 那須裕太, “災害時医療拠点における被災者名簿作成データベース,” 平成 27 年度高知工科大学プロジェクト研究, 2016.

[2] “医療救護所内の役割と活動の流れ,” 2017 年 1 月 20 日香南市災害図上演習資料.